

2017年度 湘南藤沢学会 「研究助成基金」 成果報告書

European Chapter Meeting of the Tissue Engineering and Regenerative
Medicine International Society 2017

慶應義塾大学 環境情報学部 環境情報学科

4年 安達景都

1. 活動日程・会場

日程：2017年6月26 - 6月30日

会場：the modern Davos Conference Centre, Davos, Switzerland

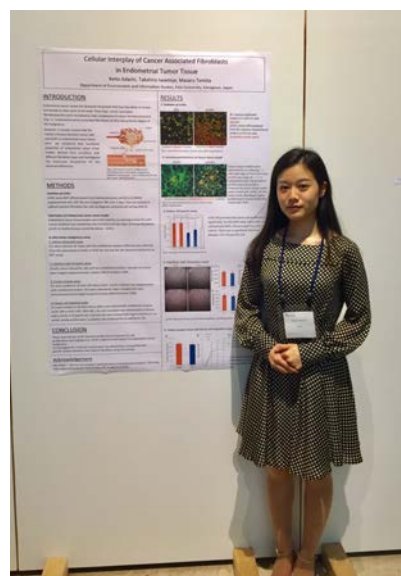
2. 活動目的

本活動の目的は、スイスのダボスで開催される European Chapter Meeting of the Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society 2017(以下 TERMIS EU 2017 と略す)でポスター発表を行い、世界中の研究者と意見交換を行うことである。本シンポジウムは再生医療と組織工学における世界最大の国際学会であり、1000人を超える研究者が参加し最新の研究成果について情報交換を行う場である。このシンポジウムに参加し自身の研究内容を発表し、様々な意見交換を行うことにより、今後の研究の内容充実や分野の勉強に繋がると考えられる。また、再生医療や組織工学を背景とした様々な分野の研究成果を聞くことにより、それらの知識を今後の研究に活かすことが出来ると考える。

3. 活動成果

TERMIS EU 2017 は、世界中から 1000 人を超える研究者が集い、再生医療と組織工学を背景とした研究の成果を報告し意見交換を行う国際学会である。本学会においては、昨年 11 月に自身の研究の要旨を提出し、審査の過程を経て今年 2 月に採択の結果を得た。学会では、自身が研究計画立案から実験の実行まで行った研究テーマについて「子宮体がんの転移におけるがん関連線維芽細胞の機能解析」というタイトルでポスター発表を行った。近年、乳がんや膵がんそして子宮体がん (EC ; Endometrial Cancer) をはじ

めとする転移性腺がんの悪性度亢進には、がん関連線維芽細胞（CAFs；Cancer associated fibroblasts）が深く関わっていることが明らかになってきた。そこで、治療法の1つとしてそのメカニズムを解明し、治療へと応用させる技術が注目されている。本研究では、近年罹患率が上昇している腺がんである子宮体がんを対象に、各種CAFsのECに対する相互作用を解明し、がんの転移及び悪性度亢進のメカニズム解明の可能性について検討することを目的とする。本研究ではこれまでに、上皮間葉転換を介して分化した子宮体がん細胞由来のCAFsを用いて、がん細胞の増殖度の評価、血管新生の評価、遊走能評価を行った。その結果、子宮体がん細胞の細胞増殖と血管新生がCAFsによって亢進するという結果を得た。本学会ではこれらの研究成果についてポスター発表を行った。ポスター発表では、研究に関する有意義な質問や意見を得ることが出来、今後の研究に大いに役立つ経験となった。また、世界各国で活躍する研究者達のシンポジウムを聴講することが出来、分野の知見を高めることが出来た。



4. 今後の展望

今回、国際学会に参加し、国内外の研究者と関わることが出来たのは、今後研究を継続する上でとても有意義な経験になった。学会で得た知識や、疑問点、他の研究者から頂いた意見を今後の研究に活かして行きたい。

5. 謝辞

本学会参加にあたり、資金面で援助を与えてくださった湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。